



# 筑波大学における教育情報の公表

大学における教育情報の活用支援と  
公表の促進に関する協力者会議

平成23年6月27日

筑波大学長 山田 信博

# 公表に向けた検討

- 第2期中期計画において「本学の特色・魅力や教育研究内容及び運営状況等について、国内外の理解を深める戦略的広報を展開する」ことを掲げ、取り組んでいる。
- 平成23年4月からの公表に向け、法令改正の趣旨を踏まえ、必要とされる教育情報を整理\*

\*既存の公表情報（『大学概要』『入学案内』等の刊行物、各組織のホームページ、学内データベース）を活用することにより、新たなデータ作成業務の発生を軽減

# 公表した教育情報

## 教育研究活動等の状況についての情報

- 教育研究上の目的
  - ・ 建学の理念、人材養成の目的
- 教育研究上の基本組織の概要
- 教員組織、教員数、教員の業績等
  - \*教員の業績⇒研究者情報システム
- 入学、卒業・修了及び進路の状況
  - ・ 入学者受入れの方針、入学者数
  - ・ 学生数、卒業・修了者数
  - ・ 進学者・就職者数、進路の状況
- 授業科目、授業の方法・内容・計画
  - ・ 開設授業科目、シラバス
- 卒業・修了の要件、取得学位等
- 施設・設備その他の教育研究環境の概要
- 授業料・入学料等
- 修学、進路選択及び健康等に係る支援
  - ・ クラス制度、学生団体
  - ・ 奨学制度（つくばスカラシップ）
  - ・ キャリア支援室
  - ・ 留学生センター
  - ・ 障害学生支援室
  - ・ 総合相談窓口、学生相談室

## 教育上の目的に応じ学生が修得すべき知識及び能力に関する情報

○学士課程、各教育組織における教育目標、教育の内容・方法、達成すべき水準、質の保証を記載した『筑波スタンダード』『教養教育スタンダード』による公表

○大学院課程\*における教育目標、大学院教育が目指すスタンダードを実現するための方針を記載した『大学院スタンダード（全学版）』による公表

\*研究科単位の組織版はH23年度に策定

筑波大学HP（URL：<http://www.tsukuba.ac.jp/index.html>）

### ◇実施上の課題

- ・本学の教育に対する社会の理解と信頼を一層高めていくためには、よりわかりやすく有益な情報の提供が必要（本学のステークホルダー（受験生、保護者、企業等）が必要な情報についての検証）

# 筑波スタンダード

6

## 人文・文化学群の教育目標

人文系と文化系の学問の豊かな知見と確かな成果をもとに、グローバル化する世界も視野に入れながら、人間の知と古今東西の文化をあらゆる角度から探求します。4年間の多様で質の高い教育を通して、優れたコミュニケーション能力と人に対する豊かな洞察力を持ち、国際的にも活躍できる人材を育成することを目指します。

## 教育目標

## 人文学類

「人間とは何か」という問いを根底におき、人間存在とその諸活動の所産としての文化全般について主体的に考察します。その考察を通して、現代における諸問題にも積極的に関与し発言しうる。真に教養ある人材を育成します。

## 教育の内容・方法

### 学群共通科目の開設

専門に関する基礎的知識と広い視野を養うために「人文・文化学群共通科目(コア・カリキュラム)」を開設します。

### 17の専門分野を基礎からじっくり学べるカリキュラムが整備されています

人文学類には、哲学、史学、考古学・民俗学、言語学という四つの主専攻分野があります。それぞれの主専攻分野はさらに全体として17のコースに分かれています。

哲学主専攻	史学主専攻	考古学・民俗学主専攻	言語学主専攻
哲学 倫理学 宗教学	日本史 東洋史 西洋史 歴史地理学	先史学・考古学 民俗学・文化人類学	一般言語学 英語学 応用言語学 仏語学 日本語学 独語学 中国語学 露語学



### 自らを表現する個性の育成

人文学類では、学生の主体的な希望を最大限に尊重したコース選択が行われています。4年の課程を経ることにより、単なる知識の集積にとどまらず、社会に自己を確実に表現できる個性を育成します。

### 幅広い興味関心の育み

このために、1年次のカリキュラムでは、狭い分野にとらわれない人間とその社会に対する幅広い興味関心を持たせ、専門基礎科目(12単位)によって将来の自己の進むべき基礎的知識を習得します。

7

## 問題解決能力と自己発信能力

2年次から3年次以降は自らの志望により主専攻コースを選択し、それぞれの問題解決の方法論を身に付け、問題解決能力を高めます。4年次では、卒業論文の作成により、幅広い教養の上に立つ専門的能力を身に付けるとともに、社会との連携や対話を深め、さらに自己発信能力を獲得します。

## 達成すべき水準

- 専門的能力：人文系の諸学問分野に関する専門的知識と固有の方法論を習得し、とりわけ、専門にかかわる文献や原資料を実証的に分析するとともに、主体的かつ創造的に理解する能力。
- コミュニケーション能力：他者に自己の考えを明快に伝達し理解させるとともに、他者の考えを柔軟に受容し理解することのできるコミュニケーション能力(外国語やコンピュータの運用能力を含む)。
- 想像力：「人間とは何か」という根源的な問いに根ざしながら、芸術・スポーツ・文学・旅などを通して獲得された幅広い教養に基づいて、広い視野から現代世界の諸課題に積極的にかわり、人類の未来へとまなざしを向けることのできる想像力。

## 教育の質の保証

### 教育力向上への取り組み

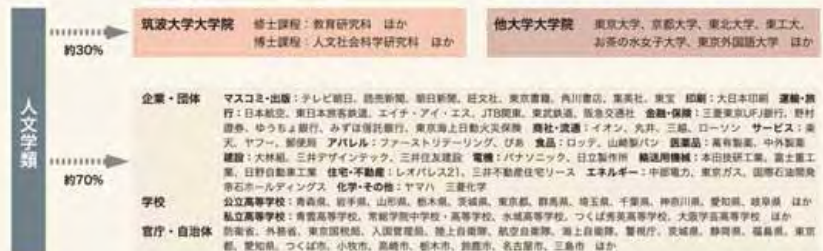
- 授業アンケートを、教育目標の達成度について学生と教員が双方向的に確認及び自覚し、卒業論文に至る長いスパンで「人間とは何か」を考える支援のひとつに位置づけています。さらに年2回(6月と12月)行われるクラス連絡会を通じて学生の声を把握し、学類カリキュラム委員会を中心に、教育の質の持続的改善を図るシステム(カリキュラム・ディベロップメント)が確立しています。
- 1・2年次生のために、演習公開(10月)や専攻説明会(1月)を実施し、主専攻コースへの進学をサポートしています。
- 実習型の授業では、実施先の教育委員会、学校関係者等の受け入れ組織との事前の交渉を重視しています。社会の学類への負担に応えられるよう、実習実施中にも報告会を行い、現地の要望や批判に対応し、成果報告書を作成した上で意見を求めるなど、外部からの評価を実施しています。

### 透明で厳格な成績評価

すべての開設授業科目のシラバスをウェブ上に公開しています。受講生だけでなく学外にも学習目標、目標達成のための授業計画、成績評価の基準を明示し、透明で厳格な成績評価に努めています。

## 卒業後の進路

卒業生の約7割は、企業・団体、公務員、教員など、国内外で広く活躍しています。残りの約3割は大学院に進学しています。



最近3年間の進路概況

# 教育の質の向上への活用

(1) 教員の業績等を集積した研究者情報システム等を活用して「大学教員業績評価」を実施

(平成21年度より)

- ・教員の「教育」「研究」「社会貢献・学内運営」活動の改善・質の向上を図ることを目的として実施。評価結果を各組織・教員にフィードバックするとともに、学外に公表  
また、全学で特に優れた活動を行った教員を認定

(2) 全学の「シラバス作成のガイドライン」を策定し、シラバスの記載内容を点検・改善

(3) 「筑波大学オープンコースウェア」(H19.4公開)

- ・本学で行われている授業資料をインターネットで公開して、知的資産を共有し、社会全体で蓄積しようとする取組み
- ・公開している授業科目 (H23.6時点)  
73科目 (学士課程41、大学院課程32)
- ・アクセス件数 累計18,300件 (H23.3時点)

# 今後の検討課題

## (1) 「大学教育の国際競争力の向上の観点から求められる情報」への対応

- 大学分科会「第四次報告」で整理されたこの情報の公表への具体的な対応については、大学の方針に委ねられている。国際化を推進する本学においては、これらの情報についても積極的に発信していくことが重要
- 5ヶ所の海外拠点を活用した情報発信の更なる推進

## (2) 学内における情報の蓄積と活用

- 教育研究の質の向上及び大学運営の改善を持続的かつ着実に進めていく上では、それに資する情報を蓄積し、有効に活用することのできる仕組みと情報システムの整備が重要
- 大学における「IR」(Institutional Research) も含めた今後の在り方についての検討

# 大学改革への取組

## (1) 社会からの期待・要請に答え得る新たな教育研究体制への改革

(目指すべき全体像：三つの観点)

- 1) 研究型総合大学として、広範な学問分野における専門性の追求、学際的な連携協力の下、世界的な卓越性を備えた教育研究を展開
- 2) 人材養成機能に対する社会の期待・要請に答え得る大学教育の提供。基礎的な研究を重視しつつ、社会の抱える諸問題の解決に積極的に貢献するための研究推進体制の一層の充実
- 3) 本学の特色や長所を伸長しつつ、我が国の大学共通の諸課題を克服するため、次代における教育研究体制の在り方を構想・実践

## (2) 組織評価の実施（平成23年度より実施）

- ・教育研究組織の各年度の活動状況を対話を通じて確認。現状と優れた取組、改善点について共通理解を形成、次年度の活動に反映

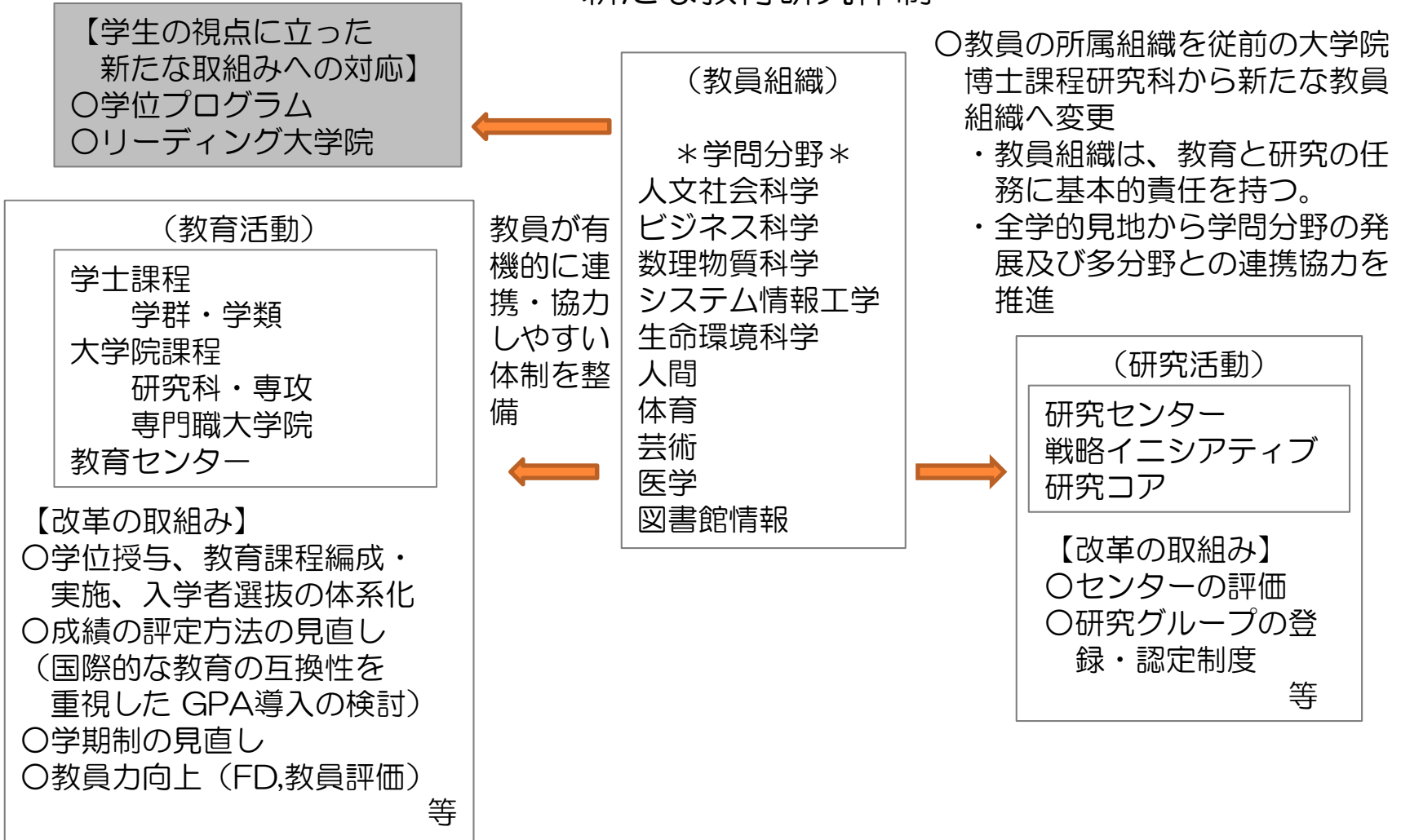
## (3) 大学教員業績評価における優秀教員の表彰・講演

- ・極めて優れた活動内容であると認定された教員を学長表彰するとともに、その活動内容について講演を実施（平成22年度18名）



# (参考) 社会からの期待・要請に答え得る新たな 教育研究体制への改革

## 新たな教育研究体制



# 大学からの情報発信

自らの活動の「見える化」を図り、積極的に公表し、社会に対する説明責任を果たすことが必要

また、社会とのコミュニケーションを一層向上させるための取組みが求められている。

## ○大学のブランディングの推進

- ・本学のアイデンティティ（UI）を基に「筑波ブランド」を確立しようとする取組み
- ・スローガン「IMAGINE THE FUTURE.」
  - ー 開学からの理念である「開かれた大学」として、教育、研究をはじめあらゆる面で想像して未来を開く視点から、筑波らしさを表現
- ・メッセージソング「IMAGINE THE FUTURE ～未来を想え」
  - ー 学生、職員が参加してDVDを制作

